

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200590
法人名	社会福祉法人 希望の里
事業所名	グループホームいこいの郷
所在地	367-0117 埼玉県児玉郡美里町白石2321-2 (電話) 0495-76-5800

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(19年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造ツーバイフォー造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、緑豊かな小高い丘にあり、同一法人が経営する特別養護老人ホームと他のグループホーム、さらにはゲストハウスが近隣し、互いに連携して利用者の生活を支援している。ホームの共用空間には3、4段の階段のある空間があり、毎日のリハビリ体操や行事等に利用して、利用者のADLの低下を抑えるメリハリある生活を支援している。利用者はおのおの自分に合った暮らし方ができている。また、法人本部がホームの近くにあるため、ホームの管理者や職員はいつでも相談を行い、必要な指導が受けられる環境であり、そのことが課題解決の早道となり、職員は悩まず生き生きと働いている。今年は「明るい職場で笑顔と心の介護」を法人全体のスローガンに掲げ、管理者をはじめ全職員が業務に励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善課題であった食事量や水分摂取量の記録については、職員間で話し合い具体策を検討し、現在は取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については全職員が意義とねらいを理解し、ミーティング時に全職員で項目ごとに日々のサービスを振り返りながら行った。なお、明らかになった改善課題はサービスの向上に向けた話し合いにより、すでに具体案の検討も行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は約2ヶ月に1回、隣接している同一法人経営のグループホーム合同で行っている。メンバーはホーム職員、利用者及び家族、さらには地域の代表者であるが、町担当者の参加はこれまではない。会議で出された課題についての意見交換を行い、サービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の日常の様子については、家族の来訪時に個々に伝えている。また、月に1回の利用料金の通知に手紙や写真を添えて報告し、利用者の日々の生活の様子を報告している。なお、利用者の体調の変化等があった時は、そのつど電話連絡をしている。その他に意見や苦情が出しやすいように玄関に意見箱を設置したり、面会時や推進会議でも意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や外出時の声かけは積極的に行い、地域の行事には参加したり、出品したり、花火見物にはホームを開放し一緒に見たりと積極的に地域との交流の場を作っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念をもとに、ホームの中でその人らしく暮らし続けることを支えていく事業所独自の理念として「全員が何時も同じ気持ちで一人ひとりを真心をこめてお世話させていただきます」を職員間で考えつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に管理者より理念の再確認をしている。また、日々の利用者の対応時も、理念を意識し、職員同士で確認し合いながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入したり、地域の行事に参加することで、地域の一員としての関係作りをはかっている。また、ホームを開放するなど、地域の人と交流する機会を作るよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義を理解し、ミーティング時に項目ごとに、日々のサービスを振り返りながら自己評価を行い、明らかになった課題は改善に向け話し合いを行っている。前回の評価の改善項目であった食事量や水分摂取量の記録については実践されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は約2ヶ月に1回、隣接している同一法人経営のグループホーム合同で行っている。メンバーはホーム職員、利用者及び家族、さらには地域の代表者であるが、町担当者の参加はこれまではない。会議で出された課題についての意見交換を行い、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町と積極的に連携を図る取り組みは特にしていない。運営推進会議も町の担当者の参加の呼びかけをしているが参加されていない。地域包括支援センター開設後は同センターとも積極的に連携をとっていくこととしている。		ホームの実態や課題を町の担当者に伝え、情報交換を行うとともに、必要な助言をいただくことで、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいただくことを期待したい。なお、推進会議の参加についても根気強い声かけに努めていただきたい。
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常の様子については、家族の来訪時に個々に伝えている。また、月に1回の利用料金の通知に手紙や写真を添えて報告し、利用者の日々の生活の様子を報告している。なお、利用者の体調の変化等があった時は、そのつど電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ホームへの来訪時や電話等で家族とのコミュニケーションの機会を設けている。家族からの意見や要望については職員間で共有のうえ必要な検討を行い、サービスの改善に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族への信頼関係を築くため、やむを得ない離職・異動時は馴染みの職員が対応するようにしている。また、同一法人のホームが隣接しているため、必要に応じて異動した職員に会いに行ったり、その場で少し過すなどして、利用者へのダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修委員会ができており、年間研修計画をたて、職員の希望を取り入れながら段階に応じた研修を実施している。研修の報告は2ヶ月に1回の全体会議で報告し、資料をファイルし全職員で共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間で相互訪問したり、勉強会をしてサービスの向上に努めているが、他法人の同業者との連携や交流の機会は持たれていない。		たとえばグループホーム連絡協議会等に参加したり、外部の研修会等に必要に応じて参加し、他事業所との交流の機会をつくり、そこでの情報交換や検討会・勉強会の活動を通してサービスの質の更なる向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族に入居前に何回か見学してもらい、他の利用者との関係づくりを大切にし、ホームに馴染んでいただくよう配慮している。入居後も家族と連携を取りながら利用者本人を主体とした柔軟な支援に心掛けている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は支援する側のみでの関わりでなく、時には家族の思いで接したりしている。また、日頃の関わりで利用者の個性や思いに添って共感し合ったり、利用者の得意分野とする事柄は学んだりして、互いが協働しながら和やかに生活ができるよう場面作りや声かけをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人から希望を聞いたり、日常の声掛けや行動・表情から思いや意向を把握し、家族の要望も聞きながら、本人の視点に立った話し合いをしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からの情報や本人の希望や意向を把握し、日々の関わりから職員の気づきのメモや意見を参考にした話し合いを行い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は設定した期間ごとに見直しを行っている。なお、計画見直し期間前であっても、利用者の状態に変化が生じた場合には、担当者会議で検討して計画に加えたり変更したりと、現状に合った計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ、通院・送迎支援など柔軟に対応している。また、法人全体で利用者の家族と共に一泊旅行の支援などもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者・家族の希望する医療機関があれば家族の協力のもと受診を支援するしくみがある。また、受診結果については必ず報告をいただき、ホームでも情報を把握し共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合早い段階から利用者や家族の希望に応じられる様職員で話し合いを行い共有している。重度化した場合に希望があれば同一法人内の特別養護老人ホームへ移ったりしている。なお、終末期についてはこれまで事例はないが、看護師もいることから希望があれば対応していくことを検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を守りながら、さりげない対応をしたり、言葉かけなどにも配慮しながら支援している。また、利用者の個別記録などの個人情報の管理には気をつけ、守秘義務を守るよう職員には周知している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや職員の都合を優先せず、利用者のその日の体調や状況に配慮しながら、一人ひとりのペースに合わせ、見守りながら希望に沿う柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて食事作りの手伝い、後片付け、テーブルふきなど職員と一緒にしている。食事職員が同じテーブルに着き、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事をしている。献立には利用者の希望も取り入れ、時には外食や行事食の特別メニューも取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴であるが、希望があれば入浴日以外でも入浴できるように対応している。なお、入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、利用者の状況やタイミングで声かけをしたり、声かけの職員を変えたり、場合によっては翌日入浴してもらうなどの配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や日々の利用者への声かけから、利用者一人ひとりの生活歴や得意とするものを把握し、日々の生活に取り入れその人に合った役割や楽しみの場面を作り支援している。具体的には食事時の手伝い、洗濯たたみ、草むしり、ホーム内の行事への協力をお願いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候やその日の体調に合わせ、散歩は日常的に行っている。その他にドライブ、外食、畑での野菜の収穫など、できるだけ屋外に出る機会をつくり支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムを付けるなど工夫し、日中時間帯には鍵をかけていない。なお、職員が一人の場合は外部からの侵入者防止や利用者の一人外出防止のため鍵をかけ、そのことは家族に説明している。また、帰宅願望のある人には職員が付き添って表に出たり、隣接の特別養護老人ホームや他のグループホームへ行って気分転換をするなど柔軟に対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回の消防訓練と年4回の避難訓練を実施している。近隣住民の方には緊急応援隊を依頼し、災害時の協力を得られるよう働きかけている。また、法人全体のリスクマネジメント委員会においては避難方法について検討し災害時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリーや栄養のバランスに配慮した献立を作成している。食材は特別養護老人ホームで一括購入しているが、調理法や味付けは利用者の状況にあわせてホームで作成し、ホームの行事にあわせて献立を変更することもある。食事量や水分はチェックをして常に摂取量を把握している。利用者の体調不良時は細かく記録し職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンキッチンになっており、調理中でも利用者とのコミュニケーションが取れ、調理の音や食材の匂いで生活感がある。共用の居間や廊下には利用者で作った作品や季節の花などが飾られている。畳敷きコーナーや毎日のリハビリ体操や行事に使う部屋もあり、必要箇所には手すりや目印が付けられ、利用者が居心地よく暮らし心身の活力につながるよう工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の希望や家族との相談のもと、利用者それぞれの使い慣れたタンスや装飾品、大切な品物を持ち込むことができる。中には利用者の好みですっきりした居室にしている人もおり、利用者一人ひとりの希望に配慮し居心地よく過ごせるような工夫をしている。		